BOOK WATCHING ブックウオッチング

岡本太郎にふれる

とっておきの3冊

今年は芸術家、岡本太郎（写真、1911～96年）の生誕100年。記念イベントや大型美術展のみならず、出版界も「太郎イヤー」を祝って記念出版や復刊が相次いでいる。新刊本もロングセラーも、それぞれ魅力的だが、ここではタイプの異なる3冊を選んでみた。

まずは、太郎の絵画・彫刻の代表作を堪能できる豪華本から。平凡社の「**岡本太郎**」は、79年に同社が刊行した作品集を完全復刻した。絵画85点とモニュメント類約80点を網羅。さらに太郎のメモや素描、昨年亡くなった美術評論家、針生一郎らの論文も収録されている。

同社が保存していたポジフィルムを最新の印刷技術でプリントし、年譜を更新した以外は、レイアウトも同じ。編集を担当した同社の竹内清乃さんは「初版本が秘める70年代のエネルギーやにおいをそのまま伝えたかった」と話す。限定500部、3万9900円と高額だが、発売3カ月で早くも残部わずかという。

次は、気軽に読める文庫本。挑戦的なタイトルでひときわ目立つのが「**自分の中に毒を持て**」だ。

「何か、これと思ったら、まず、他人の目を気にしないことだ」「人生、即、絶望的な闘いなのである」……。力強いメッセージが随所に盛り込まれている。

今でこそ太郎関連の書籍は多数あるが、亡くなった96年に流通していたのはわずか3冊。本書はその中の1冊だ。今や累計43万部のロングセラーとなっている。こうした文庫本は、絵画や「太陽の塔」からではなく、書籍から太郎に接する若いファンを確実に生んだ。

東京・南青山の岡本太郎記念館を訪れていた千葉県鴨川市の医師、野田剛さん(32)もその一人。何気なく書店で手にしたのが本書だったという。「すべての言葉が琴線に触れました。本を通して美術作品も見たくなり、ようやく実現しました」と話していた。

最後に紹介するのは、太郎により近づきたい人向きの1冊。東北学で知られる民俗学者、赤坂憲雄さんの書き下ろし「**岡本太郎という思想**」だ。

太郎は、日本文化の優れた発見者でもあり、それを文章にしたためた。雑誌に発表した「縄文土器論」（52年）は考古学者にも影響を与え、沖縄の風習を取材した「忘れられた日本　沖縄文化論」（61年）は毎日出版文化賞を受賞した。

赤坂さんは、これら名著を生んだ思索の源、刺激的なメッセージを発した背景を、太郎の著書を深く、多角的に読み込みながら迫ってゆく。太郎の頭脳の中を、太郎という名の列車でめぐる本、とでも言うべきか。「画家・太郎よりも文筆家・太郎に興味がある」という人にお勧めだ。【岸桂子】

●**岡本太郎**（岡本太郎ほか著・平凡社・3万9900円）

●**自分の中に毒を持て**（岡本太郎著・青春出版社・490円）

●**岡本太郎という思想**（赤坂憲雄著・講談社・1995円）

文章でつかんだ若いファン

岡本太郎記念館には、多くのファンが訪れている。右の作品は、太郎が「太陽の塔」の内部につくった「生命の樹」を、海洋堂が実物の20分の1で再現した（6月26日まで公開中）＝東京都港区南青山の同館で、藤原亜希撮影

@現場　ゾウの次はなんと…

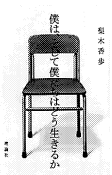
「夢をかなえるゾウ」で知られる作家の水野敬也さんが、新作中編連作集「四つ話のクローバー」（文響社・1500円）を発表した。リストラにあった男が成功法則を教えてもらおうと訪ねた先で驚きの事実を知る「深沢会長の秘密」はじめ、体が透明になり地縛霊となった男を主人公にした「見えない学校」など、シュールな物語を通して、生きるための知恵を探る。

販元の文響社（東京都港区）は昨年春にできた新しい出版社で、本書が記念すべき第1号となった。代表者の山本周嗣さん(34)は、水野さんとは中学時代からの友人。「ここはおもしろくないよ」といった厳しい感想も含め、何でも話し合ってきたという。

「自己啓発本はいくつも出ていますが、具体的なヒントがないと頭にすんなり入ってこない。そんなことを水野も考えていて、年齢を問わずおもしろく読める短い物語にしようということになった」と山本さんは語る。

さて、今回、読者の前に登場するのは……？（き）

●**僕は、そして僕たちはどう生きるか**（梨木香歩著・理論社・1680円）



14歳の少年、コペル君が友人宅へ行くと、敷地内の森にインジャ（隠者）と呼ばれる女性が暮らしていると聞かされる。兵役拒否者の話もからめ、人間が群れとして動くとき、個人はどう生きるべきかを考える小説。

●**増補　転落の歴史に何を見るか**（斎藤健著・ちくま文庫・798円）

1905年の奉天会戦からノモンハン事件に至る34年間は、政治改革に失敗、軍部が台頭し日本が破滅に向かう時代だ。そこから何を学ぶか。指導者像を探った前著に、原敬論や寺島実郎氏らとの鼎談などを加えた。

●**日本経済の診断書　さよなら「デフレ不況論」**（梶原英之著・PHP研究所・1470円）

日本はデフレではなく、政と官が「悪いのはデフレのせい」と時間稼ぎをしているだけだ。年金や証券市場、民主党政権などの問題点に本音で迫り、解決策を提示する。団塊世代の窮状を訴える分析もユニーク。

●**ダントツ経営**（坂根正弘著・日本経済新聞出版社・1785円）

建築機械大手、コマツの取締役会長で日本経済団体連合会副会長が語る、危機を乗り切る経営論。ダントツとは、まんべんなく優等生になるのでなく、強みを伸ばし、弱みを改革するメリハリのある経営を意味する。

新刊

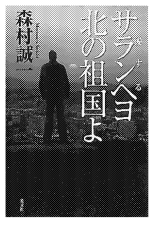
咲くも咲かぬも花嫁修業

（阿川佐和子著・東京書籍・1470円）

お花にお茶といえば、花嫁修業の代表的なお稽古事。独身を貫く著者がこの二つのほか、日本舞踊、香道、果ては盆栽まで、その道の達人に教えを請う。エッセーと写真入りの実技指導の対談で構成し、「お稽古事」の奥深さを探る。詩人、谷川俊太郎に現代詩を習う番外編がおもしろい。雑誌「ミセス」に連載された人気シリーズだ。

サランヘヨ（愛する）　北の祖国よ

（森村誠一著・光文社・1785円）



駅のホームから転落死した妻が行きたがっていた韓国・老斤里を訪れた永井順一は、帰国後、ツアーで知り合った仲間とともに妻の死の真相を探る。すると、新たな殺人事件も起きる……。78歳になる推理小説界の長老の最新作。朝鮮戦争の悲劇、老斤里事件をモチーフに、国際的な陰謀も浮き上がらせるスケールの大きな作品だ。

●**プロボノ　新しい社会貢献　新しい働き方**（嵯峨生馬著・勁草書房・1995円）

プロボノとは△社会的・公共的な目的のために、自らの職業を通じて培ったスキルや知識を提供するボランティア活動▽を指す。これからのNPO活動のカギとなるプロボノに焦点をあてて、現状や課題を考える。

●**がん専門医が部位別に語る免疫細胞治療Ⅱ**（安元公正ほか著・幻冬舎メディアコンサルティング・1575円）

がんを完治し、再発を防ぐ方法として注目されている免疫細胞治療の最前線について、肺がん、メラノーマなど、29人の専門家がそれぞれの専門ごとに論じた。

●**choo choo日和　愛のマタタビ**（Joy絵、こやま淳子文・メディアファクトリー・893円）

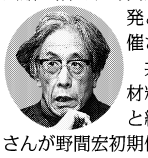
白猫、チューチュー。かわいくてちょっと切ない表情で恋する女心を伝える。△スジの通らないことこそ、ほんとうなのかも▽など、哲学的なフレーズもいっぱいの大人の絵本。

●**へんなかお**（大森裕子著・白泉社・1050円）

「ねぇねぇみててね」と、クマがやってくれたのは、舌を長くのばしたアカンベエ。シマウマやカエル、ライオン、ブタもそれぞれ、とびきりへんな顔を見せてくれる。でも、いちばんの「へんなかお」は最後に出てきます。

□「大震災・原発と野間宏」で講演会

作家、野間宏＝写真＝の没後20年を記念して来月4日（土）午後1時半（開場同1時）から、東京都新宿区袋町6の日本出版クラブ会館2階で、野間宏の会が主催して「大震災・原発と野間宏」と題する講演会が開催される。



井野博満・東大名誉教授（金属材料学）が「福島原発震災の原因と結果」について、作家の高村薫さんが野間宏初期作品の表現について語るほか、作家の熊谷達也さん、浅尾大輔さんが講演。定員120人（全席自由・申し込み先着順）。参加費2000円。申し込み、問い合わせは、〒162―0041東京都新宿区早稲田鶴巻町523の藤原書店内「野間宏の会」事務局（☎03・5272・0301）へ。

□来月5日に「一日だけの絵本学校」

日本児童文学者協会が、来月5日（日）午後0時20分から5時まで、東京都新宿区高田馬場1の32の15の日本児童教育専門学校で、絵本作家や編集者らを講師に「一日だけの絵本学校」を開校する。受講料は8000円。授業は講義だけで、実技指導や作品講評などは行わない。問い合わせと申し込みは、〒162―0825東京都新宿区神楽坂6の38中島ビル502の日本児童文学者協会講座係（☎03・3268・0691）へ。

□「子どもと本の豊かな出合い」を開講

みなと子どもの本研究会が開講中の講座「子どもと本の豊かな出合い」（共催・日本子どもの本研究会）で受講生を募集している。会場は、東京都港区新橋3の16の3の港区生涯学習センターばるーん。21日（土）午後2時、「ボランティアとして　子どもと本の出合いを作る」（講師・奥村満智子さん）、6月4日（土）午前10時、「公共図書館で子どもと本の出合いをつくる　赤ちゃんから中学生まで」（同・代田知子さん）など、6月25日まで毎週土曜日に開かれる。受講料は各回1000円。詳細は、〒176―0012東京都練馬区豊玉北4の4の18の105の日本子どもの本研究会みなと子どもの本の学校運営委員会（☎03・3994・3961）へ。

次回は6月1日です。前回の記事は、毎日jp（http://mainichi.jp/enta/book/bookwatching）で見ることができます。

この欄は第1・第3水曜に掲載

小説・聖徳太子
陽炎（かぎろい）の飛鳥
上垣外憲一 著
こんな時代だからこそ、聖徳太子を！
中国を統一した隋、三国に分かれる朝鮮半島、そして様々な移民たちが暮らす「モザイク社会」の日本。「戦」が当然の時代に、仏教思想からうまれた「和」の精神で内政、外交を貫いた聖徳太子の生涯を、東アジア古代史研究者が書きあげる。
戦争の歴史を書くよりも、平和の歴史を書くことは難しい。その「聖徳太子の平和」の歴史を、異国からの平和の使者であったに違いない、聖徳太子の師であり、また最も親しい年長の友でもあった高句麗人の僧侶の回想という形で描いたのが、本書なのである。（「はじめに」より）
陽炎の飛鳥
四六判上製本320頁 定価1785円（税込）

賢哲に学べ
武藤信夫 著
これから和
日本人の誇りと自信は、消えてしまったのか？
これからは「和」に学び「和」に生きよ！
第一章　なぜ今「和」の思想なのか
第二章　聖徳太子に現われた「和」
第三章　藤原惺窩と角倉了以、素庵
第四章　二宮尊徳――「分度」に見る和
第五章　賀川豊彦の友愛と和
第六章　昭和天皇が蘇らせた日本の和
第七章　木川田一隆に見る和の経営
「和」は私という日本人の生き方
「和」で読み解く初めての日本倫理思想史で、日本再生！
「東海の孤島である日本にやって来た多くの部族たちは、それ以上東に行くことはできないため、狭い島の中で互いに仲良く平和共存するしかなかった。幸いにもこの島は自然に恵まれ（…中略…）深い森が周りの海を豊かに育む、恵み多き風土だった。（…中略…）こうした日本の風土から生まれたのが和であり、つまり和は日本人の生き方と言ってもいいのである」（本文より）
日本には、古くから育まれた「和」があった……
今こそ、貴重なものを再発見する
日本人の知恵＝「和」を再生すべき時である
四六判上製本264頁 定価1680円（税込）

国難のこの時こそ、国の未来を考えたい…
日本はこうなったら核武装するしかないな
水産大学校名誉教授 吉澤正大 著
戦中戦後92年生きて分かったこと
●私説・日本の核武装の必要性と実現の可能性について
●自衛隊についての諸問題
●キスカ島守備隊を撤収する『ケ号作戦』
●日本のサヨクについて
●靖国神社問題
●映画「南京の真実」の実現を祈念して（目次より抜粋）
核武装の正当性を、かくも冷静に論理的に説いた稀有の書。
平和ボケの日本国民は、太平洋戦争を戦った元海軍大尉の肉声に耳を傾けよ！
元航空自衛官 第29代航空幕僚長 田母神俊雄
☆この本を読んで、これまで幻の安全神話に依存していただけると身震いしました。（40代 男性）
日本はこうなったら核武装するしかないな
吉澤正大
戦中戦後92年生きて分かったこと
田母神俊雄
四六判上製本324頁 定価1785円（税込）

アートヴィレッジ http://art-v.jp
受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18
TEL078-882-9305 FAX078-801-0006
編集部：〒104-0031 東京都中央区京橋1-6-7-2F TEL03-6228-6581 FAX03-6228-6582

好評3刷
家系は語る
先祖の願いを子孫につなぐ女性の役割
大野法弘・星裕 著
B6判160頁1300円（税込）
何故、嫁姑の闘いや夫婦の不和が絶えないのか。一万件以上の家系調査で分かったその家の習慣性。そしてその習慣性を克服するカギは女性が握っている。
――しかし、家族は時として人間性を喪失させ、凶悪な犯罪の温床ともなる恐ろしい場にもなります。そうであればこそ、家族という社会を構成する最小の場で、女性は厳然として果たすべき役割があることに気づかされます。
そしてその役割を果たす女性の立場は決して「虐げられている立場」ではありません。むしろ、女性の「尊厳を高め、人間としての喜びをより高め得る」立場なのです。（本文より）

好評5刷
機能不全家族（アダルト・チルドレン）
心療内科医 星野仁彦 著
第一章　ダ・ヴィンチの生涯、酒鬼薔薇聖斗の精神
●母親のひざに身を寄せられなかった文豪、夏目漱石
●部屋は滅茶苦茶、一つのことをやり遂げられない「天才」、ピカソ
●アルコール依存症の父から虐待された独裁者、ヒトラー
第二章　人生の転機をどう過ごすか
●不登校からはじまる「うつ」―心身の休養と治療で改善へ
●死にたい！と生きたい！の熾烈な葛藤―青年期の自殺
●増えている「ニート」の背景
第三章　生活の基本に潜む「生きるコツ」
●摂食障害者は死亡率が二〇〇倍！―過度のダイエットは心も体も傷つける
●夜型の生活をさせないで！―いつもいつも睡眠不足の子供たち
●表面は明るいニコニコうつ病
●匿名の自分に酔いしれ「うつ」に陥る場合も―インターネット依存症
●どうでもいい物を買う買い物依存症―背後に支配的な母親の姿も
●自信がなく臆病……嫉妬にかられるとコントロールできないストーカー
……他「目次」より
心が折れそうな人たちへ…
ダ・ヴィンチもアインシュタインも漱石もみな、病をかかえながらの偉業!! 児童・青年期にゆがみが生じるのは、社会全体が病んでいる？「発達障害」と「機能不全家族」の問題をくわしく解説。カゲのうすい父親、過干渉的な母親が家庭病理を作っている。
しかし、「心の病」には必ず解決の道があります。
四六判 304頁 1600円（税込）
アートヴィレッジ http://art-v.jp
受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18
TEL078-882-9305 FAX078-801-0006
編集部：〒104-0031 東京都中央区京橋1-6-7-2F TEL03-6228-6581 FAX03-6228-6582